

# トランジションの視点からみた公民連携の川まちづくり変遷の考察 -徳島市ひょうたん島エリアを対象として-

徳島大学 賛助会員 ○多田羅佑太 徳島大学大学院 正会員 山中英生  
 明治大学専門職大学院 正会員 松浦正浩 徳島大学大学院 学生会員 榎尾果歩  
 徳島大学大学院 正会員 滑川 達

## 1. はじめに

現在、都市においては気候変動といったマクロレベルの問題から、よりローカルレベルの都市再生といった課題まで、多くの複雑な問題を抱えている。こうした、社会課題の解決に向けて、社会的な合意形成を目指して、様々な市民レベルの取り組みも試みられているが、既得権を有するステークホルダーの反対などから、根本的な社会制度の変革につながるものが少ないとされる。

持続可能な未来社会を目指すには、ステークホルダーの合意形成を目指す方法ではなく、社会問題を構造的に転換可能な方策が必要であり、しかも変革の対象者が参加可能な民主的な方法論を志向することが重要といえる。すなわち、社会イノベーションを希求するシステム改革が必要である。このような方法論の一つとして、オランダ発祥のトランジション・マネジメント(TM)が着目されている。この手法はフロントランナーによるニッチな取り組みを現実社会で小規模ながらも試行することで、社会構造に再帰性をもたらし、社会システムを変革する方法論とされる。<sup>1)</sup>

## 2. 本研究の目的と方法

以上の背景を踏まえて、本研究では、過去に生じたローカルな社会の変革を起こした事象をトランジションととらえて、その変遷における関係者の行動や出来事を分析することで、今後のTM実践のための示唆を得ることが目的である。具体的には、徳島市中心部のひょうたん島エリアにおいて、市民活動によるボトムアップから変革をもたらした川まちづくりが実現している事例を対象地として選定し、活動の中心となって関わってきた人物を発掘し、発言内容を質的分析することで、トリガーとなった「出来事」・「人の行動」・「組織」・「対象地における共通のビジョン」について明らかにした。

## 3. Xカーブ図によるトランジション事象の分析

ひょうたん島川まちづくりに関係した人物を雪だるま式サンプリングによって発掘し、11名からプロフィールを聴取して、図1のトランジションXカーブ図を作成した。この図から共通の出来事、トリガーとなった出来事・人(トリガーイベント・パーソン)、共有ビジョンの分析を行った。共通の出来事には、当初の川の汚染や川・まちの縦割り行政に関する問題があげられ、トリガーイベントとしては、川の清掃等の活動や水際公園整備、公民連携、周囲を巻き込んだ活動、イベントが確認できた。また、トリガーパーソンとして、会の会長や活動家、私的参加の行政職員が見られ、会のリードや活動をサポートする組織の存在が鍵という指摘が共通してみられた。また、「市民の視線が向く川」といったビジョンが共有されていたことも確認された。こうした新たな街を目指すビジョンを人々がもち、その時点の問題点を改善する活動が継続してきた結果、川とともに水際・街並みの環境が改善された。と多くの人が述べている。ビジョンの多くが実現している。トランジションXカーブ図に示される二方向の変革を起こすためには、ビジョンが共有されていること、それにむけた具体的活動が継続されることが鍵として指摘できる。

## 4. トリガーイベントと公民連携構造の分析

次に、トリガーイベント、公民連携構造について、質的データ分析を用いて、トリガーとなる「人の行動」・

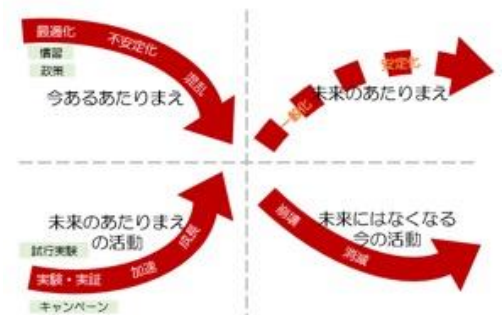


図1 トランジションXカーブ図

「出来事」・「組織」について分析を行い、それぞれの特徴を明らかにした。

まず、同時期の公民の活動が結びついた水際公園整備と川の清掃活動が分析対象として抽出された。これらのイベントを人の行動の先駆性の指標で評価し、比較したところ（図2）、民主導の川の清掃活動には課題施行・関係調整・革新寛容・目標設定に分類される要素が多く口述されており、公共事業である水際公園整備では障壁突破に関する要素に多く口述がみられた。さらにこれらのイベントを変革へのインパクトを評価する指標で比較した結果（図3）、川の清掃活動は波及効果・ネットワーク、一方で水際公園整備では、革新的・象徴的に関する要素が多く、公民のイベントで要素がお互いに補完しあっていることが明らかになった。こうした公民連携の要素がトランジションを起こすトリガーとして働いていることが示唆される。さらに民主導のイベントは、フロントランナーの活動の活発さが鍵となることも示された。

さらに、2つのイベントについて変革インパクト評価指標についての口述頻度を集計した結果を表1に示す。トリガーとなる「出来事」には、「象徴的」「波及効果」の要素が極めて多い。シンボル効果があるイベント、新しい活動を可能にするイベントなど象徴的なイベントがあること、そして、川掃除といった皆が参加したいと思う、波及効果のあるイベントが組み合わせられていることが指摘できる。特に、人をつなげる「ネットワーク」に関する発言は、公と民の協力が必要不可欠であることが確認でき、今後上記の要素を含めたイベントの実施がTM実践の鍵になることが推測される。

また、「組織」としての評価について、実践コミュニティの評価指標を適用した結果を表2に示す。特徴として「進化前提」、「内外視点」に分類される要素が多く見られ、各組織が協力して活動を行うため、複数の組織に所属し、内外両方の視点を持つ人物の存在が重要であることが明らかになっている。

### 5. 終わりに

トランジションの実現には、トリガーパーソンとして、1人でも継続して活動を行い、周囲を巻き込むフロントランナーや私的立場で参加し、公民、民間同士を繋いだり、巻き込む能力を持った人物、あるいは、資金調達などにより新たな活動を可能にする裏方の存在が重要と言える。トリガーイベントとして、公民が補完・連携しあい、周囲の人を巻き込んだ出来事の実施、象徴的・波及効果のある出来事の実施が鍵になることが示唆される。トリガーとなる組織としては、民間団体、行政、NPO法人の複数の組織に所属している人がおり、公民が協働して活動が行われてきたことで、お互いの連携が円滑に進み、公民連携構造が確立された点からも重要な要素である事が分かった。多様なレベルの参加を推奨することで活動を維持していること、シンポジウムなどで組織の価値を発出し、川掃除・シンポジウム・イベントを長年にわたり継続していること、といった要素もトランジションのための活動特性として重要であることも明らかになった。

### 6. 今後の課題と展望

今後、どのようにトランジション・マネジメントの実践につなげていくか検討する必要がある。

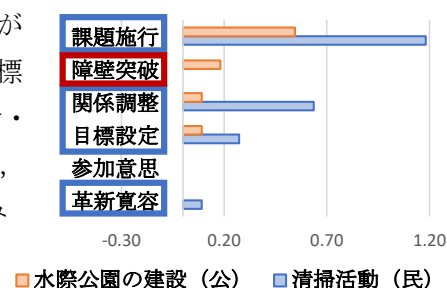


図2 人の行動から見た先駆性の比較

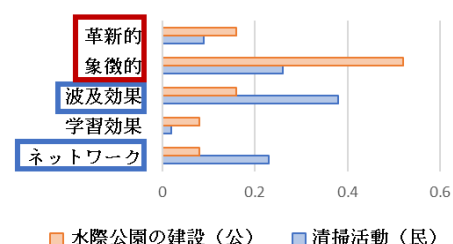


図3 出来事から見た変革インパクトの比較

表1 変革インパクト探点ツールの発言発出状況

全体	変革インパクト探点ツール					合計
	革新的	象徴的	波及効果	学習効果	ネットワーク	
全体	15	45	37	6	18	121
行政	5	19	13	0	4	41
民間	10	26	24	6	14	80

表2 実践コミュニティの設計評価の発言発出状況

項目	パーソン											合計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
進化前提	8	5	4	6	3	1	5	3	3	3	5	46
内外視点	6	7	4	3	7	6	9	6	2	5	0	55
参加レベル	1	0	0	3	4	0	1	4	0	0	0	13
公私空間	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	3
価値意識	1	0	5	4	3	2	1	1	1	0	0	18
親和刺激	0	5	0	0	0	0	1	2	0	0	0	8
規則性	4	2	1	1	0	2	2	2	2	0	1	17